

論文番号 255

担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

題名(原題/訳)

Ondansetron for reduction of drinking among biologically predisposed alcoholic patients: A randomized controlled trial.

生物学的な素因を有するアルコール症患者でのオンダンセトロンによる飲酒低下: 無作為化二重盲検臨床試験

執筆者

Johnson BA, Roache JD, Javors MA, DiClemente CC, Cloninger CR, Prihoda TJ, Bordnick PS, Ait-Daoud N, Hensler J

掲載誌(番号又は発行年月日)

Journal of the American Medical Association 284(8): 963-971 (2000)

キーワード

オンダンセトロン、セロトニン神経系、アルコール症、飲酒

要旨

初期発症型のアルコール依存症は重度のセロトニン(5-HT)系の異常や反社会的行動などの点で後期発症型のアルコール依存症とは異なっている。この観点から、初期発症型のアルコール依存症患者は選択的なセロトニン遮断薬での治療が効果的と考えられる。本研究は選択的 5-HT<sub>3</sub> 遮断薬オンダンセトロンによる飲酒習慣の改善が、初期発症型と後期発症型のアルコール依存症外来患者で異なるという仮説を検証することを目的に行われた。アルコール依存症と診断された 271 名の患者が無作為化二重盲検臨床試験の対象とされた。対象患者はオンダンセトロン 1 µg/kg (n=67)、4 µg/kg (n=77)、16 µg/kg (n=71)あるいは対照プラセボ(n=56) が 1 日 2 回、11 週間投与された。オンダンセトロンを投与された患者での 1 日あたりの飲酒回数および飲酒日での飲酒回数は対照患者と比べて減少した。オンダンセトロン 4 µg/kg の用量は対照群と比べて、断酒日の比率や総日数で優っていた。一過性のアルコール摂取の高感度で客観的な指標である血漿炭水化物欠乏トランスフェリン(CDT)レベルは、オンダンセトロン(1 および 4 µg/kg)を投与された患者と対照患者で有意に異なっていた。これらの結果は、オンダンセトロン(特に 4 µg/kg、1 日 2 回)は、多分セロトニン系の異常を改善することで、初期発症型アルコール依存症患者の治療に効果的であることを示唆している。